

【特色あるフロンティアスクールの取組事例】

(別紙様式)

都道府県番号	4
都道府県名	宮城県

()
該当する観点にチェックすること

・学校名及び規模

一迫町立一迫小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	1	1	1	1	1	2	1	8	15	
児童数	34	36	34	37	38	46	2	227		

・実践研究の概要

<p>・主題(テーマ)</p> <p>基礎学力の確実な定着を図るための指導のあり方</p> <p>- 算数科におけるきめ細かな指導方法・指導体制の工夫を通して -</p> <p>・テーマ設定の趣旨</p> <p>自ら学び自ら考える力の土台となる学力を確実に身につけさせることが重要視されてきている。</p> <p>本校の目指す児童像の一つ「自分で考える子ども」を育成するためには、確かな技能や知識、学び方を身につける必要がある。</p> <p>算数の学力検査の結果、児童の能力差が大きく開きつつあり、一人一人に対応した手立てや支援が必要とされている。</p> <p>以上のことから、基礎・基本の学習の成立を容易にしたり支えたりする基礎学力を確実に身につけさせるための個に応じたきめ細かな指導が必要と考え、本研究主題を設定した。</p>

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

学年部会と専門部会を設置し連携をとる。ソフトの作成に当たっては、情報教育担当者との連携を持つ。

学年部ごとにチームティーチング(T・T)や少人数指導担当の教員が所属し、日常的に情報交換と共通理解を図る。

週予定に研修日を位置づけて時間の確保を行う。

() 実践研究の内容

研究内容の1つの柱である個に応じたきめ細かな指導を行うための教材

開発として、コンピュータソフトの製作と活用を、次のような流れで行った。

学年部会（単元の選定）

学習指導部，情報教育担当者（ソフトの構想と製作）

学年部会，学習指導部，情報教育担当者（実践と改善）

全体会（反省）

制作上の留意点

繰り返し活用することで効果が期待される 2 年生の九九の学習を取り上げた。各段とも初めの 1 時間目にその段の構成を学習し，2・3 時間目の定着を図る場面で活用できるよう，次の点に留意した。

- ・ 児童が学習に興味や関心を持つよう，児童の写真を挿入する。
- ・ 九九の段の問題のコースを細かく設定できるようにする。
ア，何の段にするか。（1 の段～ 9 の段，またはランダム）
イ，制限時間を何分にするか。（分に何問解けるかの設定）
ウ，問題の提示で，かける数を 1～順に，9～逆に，ランダムに表示する，アレイ図を表示するなどの設定ができるようにする。
エ，児童の学習の履歴を残し，指導に役立てるようにする。
オ，答えの積は，選択ではなく自分で入力する。

指導の実際

- ・ 1 時間のうち 20 分程度をコンピュータ，残りをカードや百玉そろばんなどを使った活動を行った。
- ・ 学習に入る前，一斉に九九を唱え九九を想起するよう，アレイ図を表示するソフトを追加した。
- ・ 意欲を持って取り組ませるため，自分の記録がグラフになって表示されるように改善した。また，2 時間分の記録を書き込み，変化が見られるような自己評価表を組み合わせた。
- ・ 単調になりがちなので，九九の問題と積をクリックして合わせるタイプの九九ソフト（神経衰弱）を組み合わせ，変化をつけた。

（ ）成果（ ）と課題（ ）

様々な活動と組み合わせたこと，自己評価表，記録のグラフ表示をしたことなどで自分の目標を持って取り組むことができた。

九九をなかなか覚えられない児童にとっては，クリックをして選ぶタイプの方が取り組みやすく，学習への意欲も高まった。

間違っても気にならないなどから，積極的に自分から取り組む姿勢が身に付くが，よく考えないで感覚的に答えることも見られた。

一定時間に取り組む問題数は，児童によってかなり異なるが，その子のテンポで学習ができた。また，児童の学習の履歴を見ることで，実態把握ができた。（時間，問題の種類，問題数，正解数など）

学習をパターン化することで一人で学習に取り組めるようになり，

個別に指導を要する児童に時間をかけて指導することができた。

九九の表現・処理の力を高めることができた。

コンピュータを使うことで個に応じた学習を行い，学習内容を習熟させることができたが，思考過程を教師が確かめる必要がある。

今後もコンピュータを使った学習のよさを取り入れながら，様々な活動と組み合わを工夫していくことが必要である。

() 成果の普及方策

- ・公開研究会 平成15年10月末，本校会場，詳細は未定
- ・HP 作成中
- ・学校便り，研究便り，保護者向けパンフレットの発行
- ・町内小学校との情報交換

() その他の取り組み

内容

- ・ノートの使い方，学習の準備の仕方などの学習習慣(学習環境の整備)の共通理解と指導を行う。
- ・算数科において，T・Tや少人数指導によるきめ細かな指導の工夫や指導体制を生かした学習過程の工夫について実践を通して明らかにする。
 - ア 学習内容に合わせたT・Tや少人数指導の工夫
 - イ 児童の希望を生かした少人数集団づくり
 - ウ 計算練習や習熟のための時間設定

成果

- ・学習用具の準備やノートの書き方，補助計算の書き方などの学習習慣が身につくようになり，効率よく学習が進められるようになった。
- ・全校児童の意識調査によると，今年度の指導を通して算数が嫌いな児童の割合が少なくなり，算数が好きな児童が増えた。
- ・学級一斉のT・Tによる指導では，多様な考えを広めたり深めたりする上で有効であり，また，つまづいている子への支援も行うことができた。
- ・児童の希望を生かしたコース別学習などの少人数指導では，児童の学習への意欲が高まり，定着もなされた。
- ・授業の初めの計算タイムでは計算力の向上し，授業後半にスキル問題を設定することで学習したことの定着が見られた。

課題

- ・算数科における題意を読み取る力，自分の考えを筋道立てて発表する力の育成。
- ・指導体制に適した学習過程の工夫，個への支援，教師の連携のあり方
- ・児童の意欲を高める評価のあり方。